

世界のコンピュータのサーバーが利用している電力使用量は、日本全体の電力使用量を超える規模だと言っている。それだけでなく、電力を消費しているということだ。クラウドやビッグデータという言葉をよく耳にするようになったのはここ数年のことだ。ICT（情報通信技術）の変化のスピードは本当に速い。こうした変化がビジネスに及ぼす影響は甚大であるだろう。

例えばスマートフォン（スマホ）の普及がそうだ。人々が手にするスマホとサーバーの間では、膨大な情報がやり取りされている。スマホ上のマップに表示される道路地図の渋滞情報は



伊藤元重の

ニュースな見方

*この記事は日本経済新聞社の許諾を得て転載しています。

車のナビゲーションの渋滞情報よりも詳細といえる。車ナビでは幹線の渋滞情報しか出ないが、スマホの地図では幹線以外の道路でも渋滞情報が出てくることも多い。

これは私の想像だが、スマホを持っていて人の膨大な位置情報がサーバーに送られ、その移動スピードを用いた店舗運営が当たり前分析することで渋滞の推測ができるだろう。こうした情報のやり取りが常時行われていることを考えれば、膨大な数のサーバーが

働いているというのは納得できる。さて、ビッグデータが利用可能になることがビジネスの現場を大きく変えつつある。コンビニエンスストアなどでは、ポイントカードを利用して顧客情報を学問の世界でも、大量の売れ筋の商品ではなくても、常連客が頻繁に買っていくような商品を店に置くようにしているという。リピーターの客をつなぎ留めるためには、そうした対応が有効であるからだ。簡単に処理できるようにしている。

ビジネスへの活用に威力

ビッグデータの統計処理

ビッグデータの統計処理は、膨大な数のデータを扱うことが、最近では必ずしもトップといった研究が多かった。しかし、最近では難しい理論のろいろな成果が出てきている。ビジネスの世界でも同じ

ビッグデータの統計処理

（東大大学院 経済学研究科教授）